

# 土砂災害について

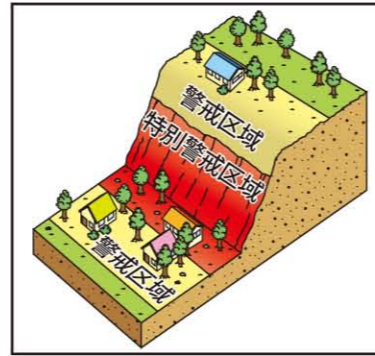
## 土砂災害の特徴

土砂災害は、がけ崩れ（急傾斜地の崩壊）、地すべりといった自然現象により、市民の皆さんの生命や財産に影響がおよぶものです。近年、大雨が頻繁に降り、土砂災害の発生件数は増加する傾向にあります。がけ崩れなどは大きな破壊力を持つ自然現象ですが、発生する場所や時刻を予測することが非常に困難であるという特徴があります。

## 土砂災害警戒区域等

熊谷市では、がけ崩れ（急傾斜地の崩壊）の土砂災害警戒区域と土砂災害特別警戒区域が15箇所ずつ指定されています。

<b>土砂災害特別警戒区域</b>	土砂災害が発生した場合、建築物に損壊が生じ、住民の生命または身体に著しい危害の生じるおそれのある区域
<b>土砂災害警戒区域</b>	土砂災害が発生した場合、住民の生命または身体に危害が生じるおそれのある区域



## がけ崩れの前兆現象を発見したら、早めの避難！

「小石がばらばら落ちる」、「斜面にひび割れができる」、「斜面から水が噴き出す」などのがけ崩れの前兆現象を発見し、災害発生の危険を察知したら、速やかに土砂災害警戒区域や土砂災害特別警戒区域の外に出て、避難場所へ避難してください。



# 気象に関する情報について

## 大雨に関する情報

雨量の状況に応じて、気象庁から次のような基準により、大雨警報や洪水警報がテレビ、ラジオ、ホームページなどを通じて発表されます。

大雨により災害が発生するおそれがある場合、警報や注意報などの防災気象情報が発表されます。

**大雨注意報・洪水注意報**  
災害が発生するおそれがあると予想されたときに発表されます。

**大雨警報・洪水警報**  
重大な災害が起こるおそれのあるときに発表されます。

**大雨特別警報**  
重大な災害が起こる可能性が非常に高まっている場合に発表されます。

雨の降り方の程度(1時間雨量)		
やや強い雨 10~20mm/時間		ザーザーと降る。 地面一面に水たまりができる。
強い雨 20~30mm/時間		土砂降り 傘をさしてもぬれてしまう。側溝や下水、小さな川があふれる。
激しい雨 30~50mm/時間		バケツをひっくり返したように降る。 道路が川のようになる。
非常に激しい雨 50~80mm/時間		滝のように降る。 傘はまったく役に立たない。車の運転は危険
猛烈な雨 80mm以上/時間		息苦しくなるような圧迫感がある。 大規模な災害が起こる可能性が高い。

# 気象情報

気象庁は、警報・注意報の発表に先立って、注意を呼びかけたり、警報・注意報の内容を補完するために気象情報を発表します。大きな災害の発生に関する気象情報には、以下のようなものがあります。

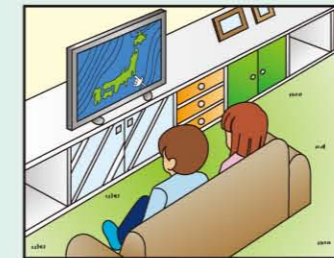
### ●土砂災害警戒情報

大雨による土砂災害発生の危険度が高まったときに、避難勧告等を発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるように発表される情報です。



### ●記録的短時間大雨情報

現在の降雨が災害の発生につながるような、まれにしか観測しない雨量(1時間雨量100mm以上)であることを知らせるために発表される情報です。



### ●台風情報

台風情報は、台風の実況と予報とからなります。台風の実況の内容は、台風の中心位置、進行方向と速度、中心気圧、最大風速(10分間平均)、最大瞬間風速、暴風域と強風域です。

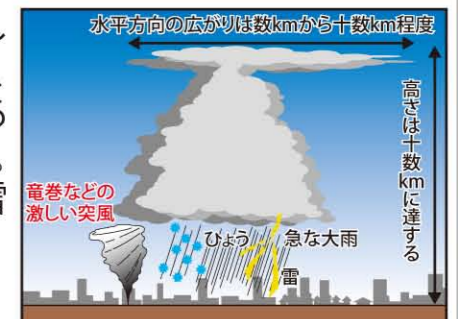
台風の予報の内容は、3日(72時間)先までの各予報時刻の台風の中心位置(予報円)、中心気圧、最大風速、最大瞬間風速、暴風警戒域です。

実況	予報
現在の中心位置	72時間先までの各予報時刻の中心位置
進行方向	中心気圧
速度	最大風速
中心気圧	最大瞬間風速
最大風速(10分間平均)	暴風警戒域
最大瞬間風速	
暴風域: 風速毎秒25m以上の領域	
強風域: 風速毎秒15m以上の領域	

# 竜巻、雷対策

## 積乱雲について

積乱雲は、強い上昇気流によって垂直方向に著しく発達した雲です。夏によく見られる入道雲も積乱雲です。積乱雲は、上空に冷たい空気があり、地上には温められた空気の層がある「大気の状態が不安定」な気象条件で発生しやすくなります。発達した積乱雲は、急な大雨、竜巻などの激しい突風、雷による災害をもたらすことがあります。



## 竜巻が迫ってきたら

### ●室内にいる場合

- 窓のそばは危険**
- ➡ 雨戸、シャッター、カーテンを閉める。
  - ➡ 窓、ドア、壁から離れる。
  - ➡ 中心部に近い窓のない部屋に移動する。
  - ➡ 頑丈なものの影に入って身を守る。

### ●屋外にいる場合

- 車庫、物置、プレハブへの避難は危険**
- ➡ 頑丈な建物の中に避難する。
  - ➡ 建物の中に避難できない場合は、物陰やくぼみに身をふせる。



## 雷が迫ってきたら

**周囲より高い場所に落ちやすい。**  
グラウンドや砂浜など開けた場所では、人に落ちやすいので注意する。

**高いものを伝って落ちやすい。**  
木や電信柱など高いものの近くは危険なため、雷鳴が聞こえたら、すぐに避難する。  
➡ 建物の中、自動車やバスなど屋根のある乗り物に避難する。

